

6月26日

「正規版コンテンツ」拡大へ向けた取り組み

出版広報センター「海賊版」緊急対策ワーキンググループ座長 塩見 健

○「海賊版」緊急対策チームの発足

2018年3月、日本書籍出版協会、日本雑誌協会ほか、出版9団体で構成する出版広報センター（出版界が共通して抱える課題について、迅速かつ的確な広報活動を行うことを目的に設立された団体）が、センター内に「海賊版」緊急対策ワーキンググループを発足。与えられたタスクは2つ。

- 1、海賊版に対する情報の一元化
- 2、出版界としての海賊版に対する情報の発信

○出版界としての情報の発信 ユーザー＝読者へ向けた啓蒙活動

- ・海賊版を利用することは、違法行為に手を貸すことであり、本来、漫画家や作家、クリエイターが得るべき原稿料や印税が入らなくなることで彼らの生活基盤を揺るがし、その結果、ユーザー＝読者が楽しめる作品がなくなってしまうことにもなりかねない、ということを理解してもらう。
- ・そのために、出版各社の雑誌が持っているSNSなどを使い、各社の人気キャラクターを動員して、海賊版のヘビーユーザーである若い世代に呼びかけていく。7月中に展開予定。

○「正規版サイト」と「海賊版サイト」を見分ける「正規版マーク」の導入

- ・「正規版マーク」（ホワイトマーク）を作成し、商標登録する。
- ・どのサイトにホワイトマークを付与するのか、「正規版サイト」のホワイトリストを作成する。
- ・「正規版サイト」の画面にホワイトマークを提示するよう、電子書店各社に依頼する。9月までに実現を目指す。

○出版各社の対応

- 1、「海賊版サイト」への削除要請、警告書の送付
- 2、インターネット広告の「海賊版サイト」へ出稿停止要請
- 3、「はるか夢の址」「ネタバレサイト」ほか、警察と連携しての摘発協力（悪質かつ日本国内に運営者が居住していると推測される場合は、必ず警察と連携している）
- 4、海外のサーバー・サービスへの削除要請・警告書の送付（現地の弁護士と連携して対応も）